

平成 29 年度学位記・修了証書授与式 式辞

本日、学士の学位を得た学部卒業生 927 名、修士の学位を得た大学院修士課程修了生 222 名、博士の学位を得た大学院博士後期課程修了生 4 名、特別支援教育特別専攻科修了生 9 名の計 1,162 名の皆さんが、2017 年度卒業生、修了生として本学を巣立って行かれます。皆さんの晴れ姿を大変喜ばしく思います。本当に、おめでとうございます。御来賓の本学後援会の原会長ならびに本学同窓会の青柳会長、列席の理事・副学長・学部長とともに、ご卒業を心からお祝いいたします。また、ご家族、ご関係者の皆様にも、心からお慶び申し上げます。



皆さんは、今日、長い人生の新たな旅立ちの日を迎えられました。これからは若い皆さんの力で新しい社会を作っていってほしいと思います。人生は、山あり谷ありです。順風満帆のときもあれば、荒波を乗り越えなければならないときもあります。皆さんには、この先人類が初めて遭遇する 2 つの大きな変化を乗り越えてもらわなくてはなりません。

1 つ目は、人生 100 年時代を迎えることです。

英国のリンダ・グラットン教授によれば、2007 年に日本で生まれた子どもについては、107 歳まで生きる確率が 50% になるとの推計がなされています。その頃には、社会で働き定年を迎えて、引退後に余生を楽しむといった人生モデルは終焉しているでしょう。人生において、ある職業で働き、そして、大学で学び直し、また次の職業で活躍するといった人生モデルになるでしょう。未来社会で必要となる仕事はこれから次々に生まれてきます。未来社会で活躍するために必要な知識や能力はすでに学んでもらっていますが、社会は変化していきますので、その変化にあわせてさらに学ぶことが必要となります。和歌山大

学は、新しい社会で必要となる最新の知識や技能を学べるリカレント教育の強化を進めてまいります。皆さんが、将来において新たな学びが必要となった時には、母校である和歌山大学を人生 100 年の「学びの場」として大いに活用して頂きたいと思っております。このような未来に向けて、新たな視点で人生設計をしてください。

もう1つは、情報システムの発展や人工知能の応用が進む中、多くの職業の担い手が人から人工知能に置き換わると予想されていることです。

日本では、人工知能や IoT 技術を活用した Society5.0 と呼ぶ「超スマート社会」を実現することで、誰にでも便利な社会に移行することを計画しています。人の知的な情報処理と同等以上の知能を持った情報システムやロボットが、様々な職種で活用される時代が来ています。仕事が無くなるのではないかという心配もありますが、その反面、知的なシステムを構築して、活用する仕事が増えつつあります。経済産業省の IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査によりますと、IT 人材は現在 17.1 万人不足、2020 年には 36.9 万人、2030 年には 78.9 万人不足するという調査報告が出ています。特に、先端 IT 人材（AI、IoT、ビッグデータ等に携わる人材）や情報セキュリティ人材のニーズが高まっています。人工知能の発達で、人の仕事や社会の仕組みも年々大きく変わることと思います。常に新しい知識や技術を身に付けていくことが大切です。この点でも和歌山大学に再び学びに来て頂きたいと思っております。

冬季オリンピック・パラリンピックでは、日本選手の目覚ましい活躍を目にしましたが、

今年度は、和歌山大学の課外活動での活躍が相次ぎ、硬式野球部、水泳部、女子剣道部、(女子)弓道部、他多くの競技で好成績を残しました。

なかでも、硬式野球部は、メディアにも大きく取り上げられましたが、近畿学生野球連盟の春季リーグにて、創部以来、初のリーグ優勝を果たし、念願の神



宮球場での全日本大学野球選手権大会に出場いたしました。今年この大会に出場した国立大学は、和歌山大学1校だけであり、非常に注目を集めた中、初戦の岡山商科大戦に勝利いたしました。選手・監督をはじめとする野球部関係者の努力の賜物であることは勿論ですが、和歌山大学 OB や和歌山県出身者など総勢 400 名と、和歌山大学吹奏楽団から成る大応援団の熱い声援も大きな力となったことは言うまでもありません。2戦目は、約

300名の野球部員を持つ上武大学に惜しくも負けてしまいました。部員約60名の和歌山大学硬式野球部の今後の活躍も期待できる神宮球場での奮闘でした。

スポーツ活動であれ、文化活動であれ、個人の实力だけでなく、チームとしての能力が発揮されることが重要と思います。

また、近年は、世界各地で自然災害が発生し、テロや国際紛争が頻発しています。日本では、地震や大雨、台風による被害が多発しており、和歌山県でも、まだ記憶に新しい平成23年の紀伊半島大水害で多くの人命が失われ、甚大な被害となりました。

私は、今年の9月にフランスのマルセイユで国際会議に参加いたしましたが、主要な駅では、武装警察や兵士が銃を携えて警備を行っていました。

このように、私達の周りには、天変地異やテロ・国際紛争による社会不安が常にあります。世界情勢を学び、有事・災害に備えれば、うまく対応でき、被害を最小限にとどめることもできるでしょう。自ら課題に立ち向かう姿勢が重要です。

先日、英国の著名な（宇宙）物理学者であるスティーヴン・ホーキング博士が亡くなりました。博士は、車椅子での生活で、スピーチや会話ではコンピュータによる合成音声装置を利用されていました。長年、ブラックホールの消滅に関する理論など、非常に興味深い研究を続けられてきました。探求心を持ち続けることで重要な研究成果を出し続けられたものと思います。

皆さんも、長い人生どんな時も探求心を忘れずに、探検家の気持ちで、未知なる明日に希望を持ち、自らの進路を、そして未来を切り拓いてください。

皆さんが、世界の様々な変化や課題に主体的に対応し、明るい未来を見出せるように、生きがいを持って、社会の一員として活躍されることを期待いたしまして、式辞といたします。

2018年3月23日

和歌山大学長 瀧 寛和

